



Title	センター長就任にあたって
Author(s)	寺田, 浩詔
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1993, 89, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66010
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

センター長就任にあたって

寺 田 浩 詔

前センター長松田治和先生が本年3月停年退官された後を受けまして、センター長を勤めさせていただくことになりました。本センターは、歴代センター長のご努力と学内外の関係各位のご協力を得て、非常に順調に発展してまいりました。私も、微力ではありますが、皆様のご援助ご叱声をいただきながら、センターの一層の発展のために、全力を尽くしますのでよろしくお願い申し上げます。

大型計算機センターの役割は、いわゆるダウンサイジングの傾向にも明らかに見られるように、近年著しい変化を見せております。今後は、単なる計算処理能力の提供にとどまらず、学内外のあらゆる情報サービスの要請に応えられる核となるような機能の実現を指向して参りたいと考えております。例えば、学術情報のあらゆる側面を捉えたデータ・ベース機能の提供は、従来にもまして非常に重要な機能となって参っております。また、ベクトル計算機についても、単なる計算処理能力の提供だけではなく、出力の可視化と実時間的な協調動作によって、あたかも自室にスーパーコンピュータがあるかのような環境を提供することが求められていると考えております。

このような豊かな情報環境の実現には、まず、学内外の情報通信インフラの整備が焦眉の案件であり、マルチメディア化への動きを充分考慮して、構内・学内・および地区のネットワークを構築することが当面の最大の課題であると考えております。幸い、最近は、ネットワーク機器のハードウェアの性能価格比は大幅に向上してきております。しかし、このようなネットワークが生み出す機能は、ネットワークとその構成員が協力して作り上げる、応用および運用の両面でのソフトウェアの在り方に大きく依存します。優れたネットワーク環境を作り上げるためには、センター関係者の努力だけではなく、利用者の協力が不可欠の要素となります。

当面、かねてから計画中のODINSの実現に向けて全力を傾ける所存ですが、その機能を十二分に発揮させるためには、学内外の関係者からの種々の面でのご支持ご協力が必須の条件であります。幸いにも学内では、大阪大学総合情報通信システム整備本部が、前センター長松田先生のひとかたならぬご努力で発足し、本格的な実施に向けての体制が整いました。しかし、この体制の実を挙げるためには、学内外の多くの方々のご協力ご支援を得なければなりません。非才ながら全力を挙げて、将来に向けたネットワーク環境の実現に努力する所存です。今後とも、センター利用者をはじめ、関係各位の一層のご指導ご協力をお願いして、就任のご挨拶にかえさせていただきます。